＝ Match　Report ＝

平成３０年度栃木県高等学校サッカー新人大会　　決勝

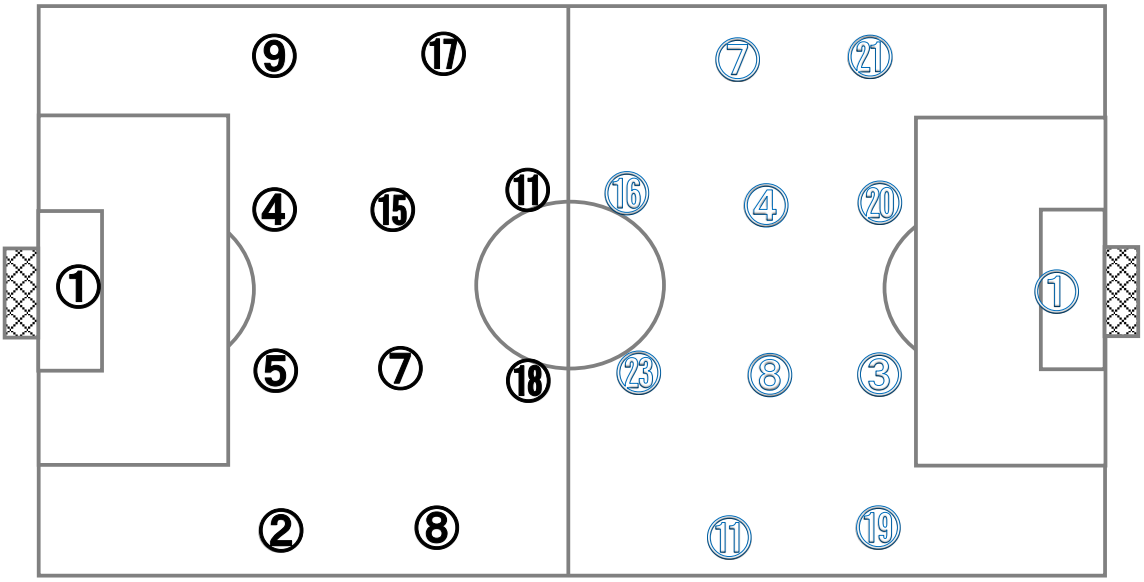
2019 年　2　月　3　日（　日　）　　11:00 kick off 会場（ 宇都宮市河内総合運動公園陸上競技場 ）

矢板中央　　vs　　佐野日大

矢板中央		佐野日大
1	1 - 0	0
	0 - 0	
	-	
	-	
	PK	

矢板中央高等学校
基本システム　　１－４－４－２

佐野日大高等学校
基本システム　１－４－４－２



【Match　Report】

昨年の全国高校サッカー選手権大会でベスト8まで進出した矢板中央と、県予選の決勝で敗れた佐野日大との2大会連続同カードでの決勝戦となった。矢板中央は１－４－４－２のシステム、佐野日大も１－４－４－２のシステムでスタートした。両チーム共に堅い守備を誇り、今大会ここまで無失点で駒を進めてきた。立ち上がりはお互いにロングボールを多用し、シンプルに攻める展開でスタートする。矢板中央は⑱大貫と⑪多田をターゲットにして攻撃の起点を作ろうとするが、佐野日大DF陣が跳ね返しセカンドボールもコンパクトに保って回収する。前半20分に矢板中央はゴール前で得たFKを⑮靏見が直接決めて先制する。佐野日大は⑯早瀬をターゲットにして攻めようとするが、矢板中央④長江を中心としたDF陣が空中戦で跳ね返して起点を作らせない。その後はお互いに決定機を作れないまま前半は矢板中央が１点リードして折り返した。

後半は佐野日大は⑯早瀬に代えて⑩田中を投入し攻撃の活性化を狙う。矢板中央も後半から⑩久永をFWに投入し、追加点を狙う。互いにコンパクトに守備陣形を保ち、セカンドボールの回収から得点を狙う形が続く。佐野日大は15分にクロスボールに当たるシュートを放つなど、徐々にゴールに近づくシーンを作る。さらに佐野日大は19分にもFKがクロスバーをかすめるなど矢板中央ゴールに迫る。矢板中央はこの苦しい時間帯を体を張った守備で耐え、徐々に流れを引き寄せる。佐野日大は同点ゴールを狙い立て続けに選手を交代する。佐野日大はゴール前へのボールを増やし得点を狙うが、矢板中央はフィールドプレイヤー全員がコンパクトな陣形を敷いてゴール前で跳ね返し続ける展開が続く。最後までFKで得た１点を守り切った矢板中央が１－０で勝利した。

矢板中央は選手権からわずかな時間で新チームを作り上げ、見事県新人大会2連覇を果たした。一方の佐野日大も矢板中央のゴールまであと一歩のところまで迫るシーンを何度も作り、今後に期待できる内容であった。両チームの今後の更なる成長が楽しみな試合であった。

記載責任者　　所属（　　烏山高等学校　　）　氏名（　　福田　康平　　）